

<b>アラクロール乳剤</b> <b>ラッソー乳剤</b>	<b>取扱メーカー：</b> 日産、日農  <b>原体メーカー：</b> 日産
<b>成分：</b> アラクロール〔酸アミド系 PRTR・1 種〕……………43.0% <b>その他 PRTR 該当成分：</b> クロロベンゼン〔PRTR・1 種〕……………49%	<b>性状：</b> 暗赤紫色可乳化油状液体  <b>毒性：</b> 普通物 <b>消防法：</b> 第4類・第2石油類（非水溶性）・危険等級Ⅲ

### 【品目特性】……………

- 一年生のイネ科及びバカヤツリグサ科雑草に優れた効果を示し、広葉雑草に対してはやや劣る。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

### 【使用上のポイント】……………

- 雑草の発生前土壌処理剤なので必ず雑草の発生前に使用する。
- イネ科雑草には卓効だが、タデ科、アカザ科などの広葉雑草には効果が劣る。
- 砕土、整地は丁寧に行い、また、は種後の鎮圧も行うようにする。

### 【薬効・薬害等の注意】……………

- 有機物を多く含む土壌や粘質土では所定範囲の高用量を使用する。
- いちごに使用する場合
  - 親株床では植付後及びランナー発生時の2回、また本圃では定植後及びマルチ前の2回散布し、体系で処理すると有効である。
  - 本圃では、なるべく株に薬液がかからないように注意し、暖地では株間処理した方が安全である。
  - 半促成栽培では、株間処理をする。
- こまつなに使用する場合
  - 砂質土壌では薬害を生じるおそれがあるので使用をさける。
  - は種時の覆土は1～2cmとする。
  - 薬剤処理は土壌表面が乾いた状態で行う。
  - 薬剤散布後の過剰の灌水はさける。
- ソルガムに使用する場合
  - 砂質土壌では薬害を生じるおそれがあるので使用はさける。

- は種時の覆土は3cm以上とする。また散播では使用しない。
- 薬剤処理は土壌表面が乾いた状態で行う。
- 激しい降雨の予想される場合は使用しない。
- ソルガムは品種が多く薬剤に対する品種間差もあるため、使用の際は必ず病害虫防除所等関係機関の指導を受ける。

#### ●はとむぎに使用する場合

- 砂質土壌や有機物の少ない土壌、過湿な土壌では薬害を生じるおそれがあるので使用はさける。
- は種時の覆土は3cm以上とする。
- 薬剤処理は土壌表面が乾いた状態で行う。
- 激しい降雨の予想される場合は使用しない。

#### ●さとうきびに使用する場合、ツノアイアンには効果が劣る。

- 散布・薬剤調製器具はなるべく専用とし、兼用する場合は散布後できるだけ早く水で十分洗浄する。

- 適用作物（はくさい、ほうれんそう、だいこん、かぶ、のぎわな、こまつな、いんげんまめ、たばこ、ソルガム、はとむぎ）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

- 適用外作物（きゅうり、ねぎ）への薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

### 【安全対策上の注意】……………

- 藻類に影響を及ぼすので、使用時は注意。
- 散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。



【適用と使用法】 .....

作物名	適用 雑草名	適用 土壌	使用時期	10 a 当り使用量		使用方法	適用 地帯	本剤及びアラフ ロールを含む農 薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
な し	一年生 雑草	全土壌	春～秋期 (雑草発生前) 但し、 収穫21日前まで	500 ～ 600 ml	100 ℓ	全面 土壌散布	全域	2 回以内
ぶ ど う			春～秋期 (雑草発生前) 但し、 収穫45日前まで					
とうもろこし 飼料用とうもろこし			は種後出芽前	200 ～ 400 ml			北海道	北海道 を除く 全域
	300 ～ 600 ml							
は と む ぎ	生育期1～2葉 期 (イネ科雑草 2葉期まで)		200 ～ 400 ml	雑草茎葉 散布又は 全面土壌 散布		北海道		
	は種後出芽前		300 ～ 600 ml					
か ん し ょ	挿苗後 (雑草発生前) 但し、 収穫90日前まで		300 ml	全域		2 回以内		
ば れ い し ょ	植付後 (雑草発生前) 但し、 植付14日後まで		200 ～ 400 ml				北海道	
だ い ず ら っ か せ い え だ ま め	は種後出芽前		300 ～ 600 ml	全面 土壌散布		1 回		
いんげんまめ			300 ～ 400 ml					
キ ャ ベ ツ	定植8日後まで		150 ～ 200 ml					
ブロッコリー	定植後 (雑草発生前) 但し、 収穫60日前まで							
は く さ い ほうれんそう だ い こ ん か ぶ の ざ わ な	壤土～ 埴土		は種直後				150 ml	全域
こ ま つ な		50 ～ 100 ml						
いちご(親株床) いちご(子苗床) いちご(本 圃) いちご(施設栽培)	全土壌	植付後又は 定植後 (雑草発生前) 但し、 収穫60日前まで	150 ～ 200 ml	全面土壌 散布又は 株間土壌 散布		2 回以内		

作物名	適用 雑草名	適用 土壌	使用時期	10 a 当り使用量		使用方法	適用 地帯	本剤及びアラクロールを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
てんさい (移植栽培)	一年生 雑草	全土壌	移植後 (雑草発生前) 但し、 収穫60日前まで	300 ～ 400 ml	100 ℓ	全面土壌 散布	北海道	3 回以内
	一年生 イネ科 雑草		中耕培土後 (雑草発生揃期) 但し、 収穫60日前まで			雑草茎葉 散布又は 全面土壌 散布		
てんさい (直播栽培)			中耕培土後 (雑草発生前) 但し、 収穫60日前まで					
さとうきび (春植又は夏植)	一年生 雑草		移植後 (雑草発生前) 但し、 植付90日後まで	400 ～ 600 ml		全面土壌 散布	九州 沖縄	2 回以内
ソルガム			は種直後 (雑草発生前)	300 ml			全域	1 回
桑			桑発芽前 (雑草発生前)	400 ～ 600 ml				2 回以内
たばこ (無被覆栽培)			定植前10～20日 (雑草発生前)	200 ml				1 回
たばこ (普通畦面被覆栽培)								
たばこ (折衷マルチ栽培)		100 ml						